

日本 SEL 研究第 13 回大会へのお誘い（2 号通信）

大会テーマ：「多様な設定と連携により発展する日本の SEL」

ZOOM 開催 2 月 25 日（土）9：30 より受付開始 10：00 開始 18：00 終了

大会事務局 瀧澤悠 都留文科大学・日本 SEL 研究会理事

岡山千賀子 徳島文理大学 日本レクリエーション協会理事

講演：10:10~12:00

日本の未来に貢献する SEL：Discovering the role of SEL in developing Creative Collective Intelligence（創造的集団知の開発における SEL の役割の発見）

講師：Patrick Newell（教育活動家・ビジョナビゲーター・「TEDxTokyo」代表）

司会進行 鈴木水季 郁文館夢学園スクールカウンセラー・千葉経済大学非常勤講師
日本 SEL 研究会理事



パトリック・ニューウェル氏
アメリカ出身。東京インターナショナルスクールの共同創設者。
講演イベント「TED」の「TEDxTokyo」共同設立者。
OECD の日本における SE スキル調査に関わっている。

ご本人からいただいた英文紹介文を訳し(DeepL 使用)数回に分けてご紹介します。その 2

カリフォルニアで育ち、ビバリーヒルズ貯蓄銀行でモーゲージバンカーとしてキャリアをスタートさせたパトリックは、1991 年に来日しました。以来、政府の教育基準を満たしながら 21 世紀型スキルを育てること、あらゆる年齢の学習者のための学習プログラムと環境を創造することを目指してきました。その追及の結果として、1995 年パトリックと彼のパートナーは、2 人の娘のために東京インターナショナルスクール（TIS）を設立したのです。

2006 年には「リビング・ドリームス」を設立しました。日本の児童養護施設に暮らす子どもたちの生活を豊かにするために設立された NPO です。主な活動のひとつは、インターネットへのアクセス、ハードウェア、トレーニングを提供することで、子どもたちが世界にアクセスし、21 世紀の学習に参加できるようにすることでした。

2009 年、パトリックは世界中を旅し、さまざまな学習環境にいる子どもたちを記録しました。そして、21 世紀の学習者に 21 世紀型の学習をどのように分かってもらえるか検討し、ドキュメンタリー映画「21:21」を制作しました。

参加・発表申込み方法； <http://j-sel.org/> より

参加申し込み期限：2/20；参加費支払い期限：2/21

参加費：会員 1,000 円、学生非会員 2,000 円、非会員 4,000 円

原稿送付期限：1/22；お申込み後抄録原稿送付をご案内します。

研究発表：13:00~14:20

「多様な SEL 実践やアイデアを共有する」

司会 佐藤修哉 長野大学 日本 SEL 研究会理事

青山郁子 都留文科大学 日本 SEL 研究会理事

シンポジウム：14:30~16:50

「多様な設定と連携により広がる SEL の可能性」

司会進行 渡辺弥生 法政大学 日本 SEL 研究会理事

指定討論 笹尾敏明 国際基督教大学

シンポジスト 今井朝子 自由ヶ丘学園高等学校 教育戦略室長

OECD SE スキル調査ナショナル・プロジェクト・マネージャー

高校生に社会性と情動のスキルを、協働(collaboration)の実践を通して教えています。OECD による社会性と情動のスキルの国際的な調査、東京大学・イリノイ大学・NTT によるネットワーク VR の国際共同研究、海外製品の日本へのカスタマイズなど、多数の国際的なプロジェクトで日本側のプロジェクトマネージャーを担当することを通して、協働の重要性を実感しました。また社会で成功している多くの人が協働に長けているというデータもあるため、子どもたちに協働のスキルを教えています。特に社会性と情動のスキル (SES) は協働を成功させるために重要であるため、高校では PBL (プロジェクト・ベースド・ラーニング) の中で SES を伸ばす試みをしています。シンポジウムでは、その試みと OECD 調査についてお話したいと思います。

シンポジスト 船度圭子 和歌山県学童保育連絡協議会役員

京都大学での研究のお手伝いとして、SEL のプログラムを幼稚園・こども園で実施しています。保護者説明会でご家庭に SEL の重要性を知っていただき、園の職員の方々とセッションについて打ち合わせをしながら進めました。子どもによって理解力、受け取り方、考え方が違います。どのように進めればより理解してもらえるのか、どのような進め方がその場の子どもたちに合っているのか、実際に毎日関わっておられる先生方とお話するからこそ、その場の子どもたちに合った進め方ができているのではないかと思います。支援を強化するためには、現場・家庭との連携、そしてその現場や家庭とつながっている行政との連携についても考えていかななくてはならないと強く感じています。

シンポジスト 山根隆宏 神戸大学 日本 SEL 研究会理事 / 石本雄真 鳥取大学 日本 SEL 研究会理事

全国で放課後等デイサービス事業等を展開しているデコボコベース株式会社と発達障害児を対象とした SEL プログラム開発と効果検証に関する産学共同研究に取り組んでいます。私たちが開発してきた不安症状をもつ発達障害児向けプログラム「PEACE」を、企業のキャラクターにアレンジをし、教材の映像化などを行い、実際に発達障害児に実施し、効果検証を進めてきました。企業との共同研究では、企業のアイデアやニーズ、現場の支援者の声等をプログラムに反映させながら、多くの障害児にプログラムを届けることができる利点を感じています。一方で研究者と企業の考え方の相違や、実際の現場でプログラムを導入することの難しさも感じています。当日は産学共同研究の利点、課題についても触れてみたいと思います。

オンライン交流会：16:50~17:50

司会進行 西田千寿子 一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター代表

日本 SEL 研究会監事